



ア
リ
ト
で
つ
む
ぐ
ま
ち
と
ひ
と

アートでまちを彩る

なぜ常陸大宮にアート？
常陸大宮には、芸術家の方が多い。身近にいる方々から市民へ、と贈りやすいと考えた。また、地域を活性化するためのシャッターアートを行っており、まちとアートの繋がりが深いと感じた。茨城県北芸術祭の舞台のひとつとなった場所である。アート（芸術）と関係の深い場所だと思った。
常陸大宮は、子育てにチカラを入れているため、子育て世代や子供たちがアート（美術館）に触れることで、刺激になると考えた。

アートの魅力

アートとは、多種多様な形で表現される情緒や視点、社会的メッセージを伝達する手段。言葉だけでは表すことが難しいほど多面的で深遠。絵画や彫刻、建築といったアートは特性によって人間の感性を刺激し、新たな視野を開いてくれる。

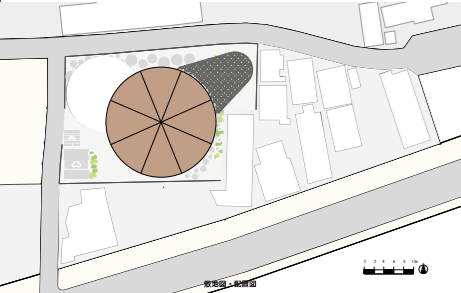
アートでつむぐまちとひと

- まちとひとをつなぐ懸け橋としてアートを用い、駅周辺のコミュニティと活性化を図る。
- ①インターネットなどの普及により、どこでも画面上で見られる環境ができた今、身近でアートに触れることができる施設があることで、人が集まり、世代を超えた繋がりがや新たな出会い、豊かな感性を育てることができると思った。
 - ②アートという、生活から少し離れたものを駅前に設けることでふらっと気軽に立ち寄れる場所にしたいと思った。
 - ③作家さんなどの作品だけでなく、市内の方、学生、子供の作品を飾ることで、より身近に感じてもらう。
 - ④ワークショップ等の開催で、アートに自ら参加してもらい興味を持ってもらう。
 - ⑤常陸大宮の特産品・名産品を使った建物をつくる。

建築概要

計画地 茨城県常陸大宮市南町
敷地面積 956.25 m²
建築面積 475.927 m²

ここから *つく* 常陸大宮の豊かな未来。



敷地図・配置計画
商店街側からも入れるようにするため、住宅をなくす計画。誘導するため、柱列や石畳を配置。建物は、はなれのアートギャラリーも七宝模様の屋根をかけることで調子を持たせた。調子という点から、軸を連想し、円を多く使ったデザイン。

平面計画
円をモチーフに計画。カフェ・ダイニングバーは、座敷とテーブル席、カウンター席を設けて広々空間に。アートミュージアムは、展示室を分け、展示に合わせた空間の演出。キッズスペースやグッズショップも配置。アートギャラリーは、ベンチとテーブルを配置。ワークショップの開催。フリースペースとして開放。アートミュージアム、アートギャラリー共に、屋根の下から入れるように計画し、雨等の時の出入りも考慮した計画とした。



北側立面図
どの屋根にも動きを持たせ、この施設ができることで常陸大宮に賑わいが生まれる動きを表現



商店街側からの誘導 小道を通り、施設入口へとつながる動線計画。



アートギャラリー フリースペースとしての開放。マグカップのデザインや芸術家の方から学ぶアート体験等のワークショップの開催。



アートミュージアム
常陸大宮出身、または在住の芸術家の方の作品を常時展示。また、小学校の生徒の作品展やまちの方々の作品展を定期的に開催。毎週金曜日を市民デーとし、市民の方は無料で入館ができる。

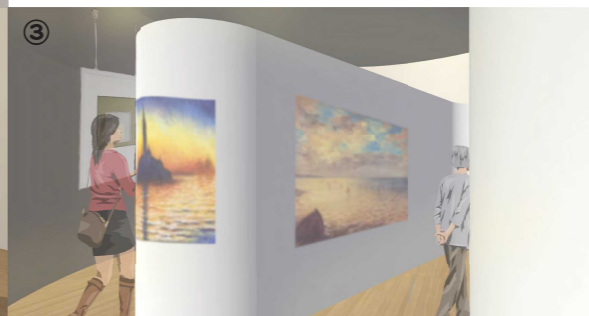
展示室①
どのような展示があるのか先が見えない、ワクワクするような誘導計画。

展示室②
表面的な作品だけでなく、陶芸や地元の高校生の生け花などの展示に向けた空間。

展示室③
迷路のように続く壁、鏡を巧みに使った空間演出。天井から吊るす展示も可能。



入口・受付



グッズショップ



カフェ・ダイニングバー
昼はカフェ、夜はダイニングバーへと2面性を持った店舗。店内の壁面にアートを展示。ラテアートなどのメニューからもアートを楽しめる。アートを観ながら、触れながら、食事を楽しむことができる。



キッズスペース



ホール

この店舗では、アートギャラリーで企画するワークショップにて制作したマグカップを持参することで、ドリンクメニューの割引が受けられる。